資料4

東北医科薬科大学薬学部
改訂モデル・コアカリキュラム
実務実習説明会

実習開始前・実習中に実施して頂く具体的な事項

日　時:　平成30年11月3日（土）
場　所:　東北医科薬科大学小松島キャンパス
　　70周年記念講堂

東北医科薬科大学薬学部薬剤学教室
我妻　恭行

はじめに

新しい実務実習では、学生、薬局、病院、大学間の連携と情報共有が重要課題となることから、webツールを軸にした運用が基本になります。

ここでは、実習が始まる前までに必要な準備、実習が始まってから実際に実施する具体的な内容について、webツールの操作方法を交えて具体的に解説します。

東北地区薬系6大学間のwebツールの統一と実務実習運用の標準化について

これまで、実習の評価方法やwebツールが大学間で異なっていたため、実習受入れ施設にたいへんな御不便をおかけしていましたが、

新しいカリキュラムの実務実習を導入するにあたり、東北地区の薬系6大学では、この問題の解決を図るため、これまで綿密な調整をしてきました。

この度、**基本的な運用方法の標準化を図るとともに、webツールの統一**を図ることが出来ました。

新webシステムマニュアルのDL方法

（from 東北医科薬科大学DLサイト）

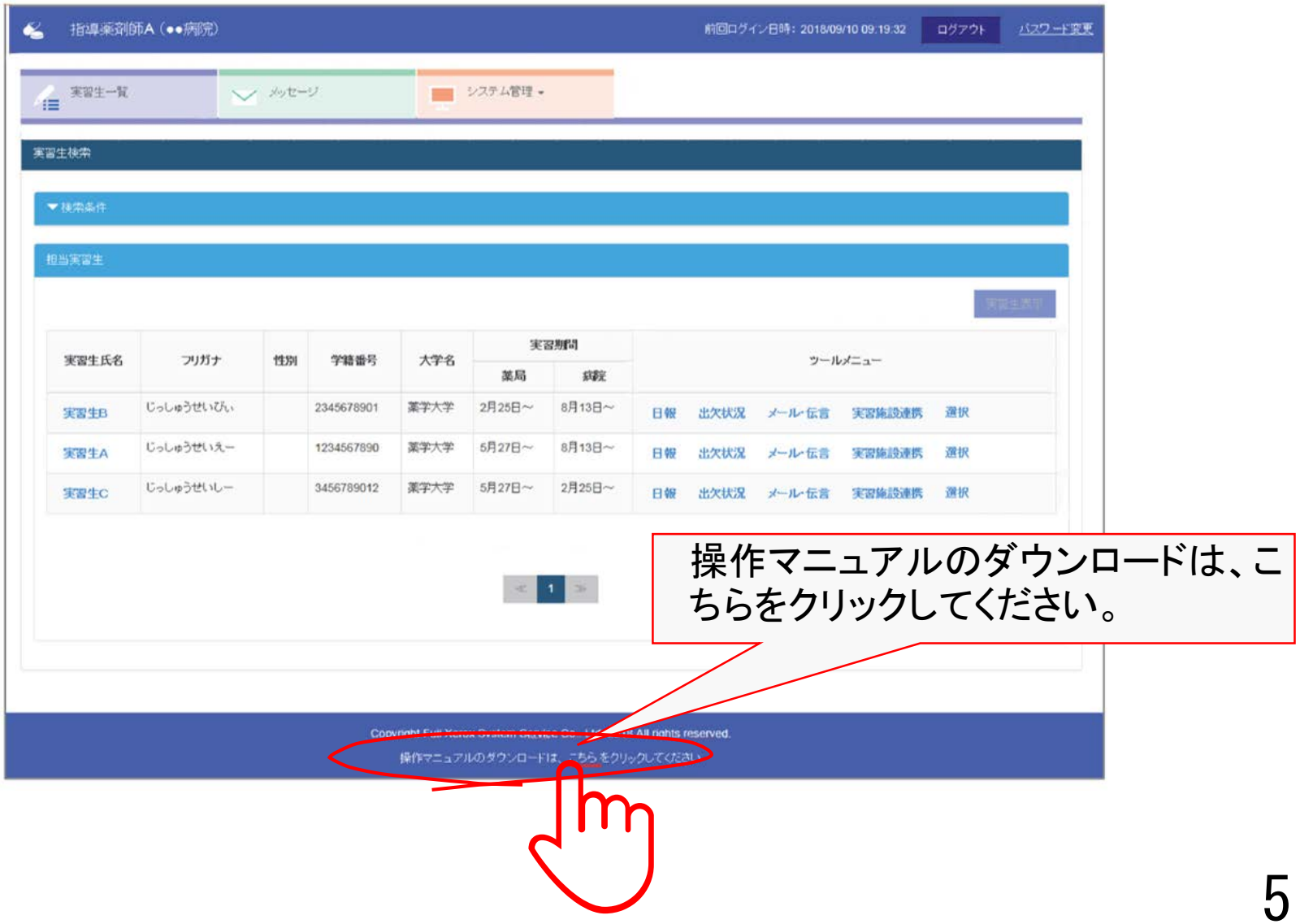
このURLを直接ブラウザに入力して下さい。

http://www.tohoku-mpu.ac.jp/wp/data/jisshu/manual.html

システム稼働後は、システムから直接閲覧可能です。（**12月中旬**稼働予定）

システムからマニュアル閲覧方法

【トップ画面】



操作マニュアルのダウンロードは、こちらをクリックしてください。

Contents

Ⅰ. 実習開始前までに実施すること

概　要

1. 初めてのログインと新webツールの概要
2. 実務実習実施計画書の確認と更新

Ⅱ. 実習中に実施すること

概　要

1. 実習日誌
2. 振り返りレポート
3. 到達度評価（概略評価）

Ⅲ. 補　足

Ⅰ　実習開始前までに実施すること

（実習施設の実習管理者）

2019年度実務実習開始までの主なスケジュール

時　期	事　項
11月3日	実務実習説明会
11月4日～	本学 URL より webツールマニュアルをダウンロード可能
11月9日～	受入確認票、指導薬剤師確認票作成 （返送〆切：11月 22日）
12月中旬	Webシステム稼働
	本学：　施設マスター／学生マスターのアップロード 実務実習実施計画書の作成およびアップロード 学生：　学生プロファイル作成 （12月末までに入力）
12月下旬	・Web システム ID および仮パスワード受領 ・初回ログインおよび本パスワード作成
12月下旬～	契約関連書類作成 （返送〆切：翌年1月末日）
1月18日～	本学で作成・登録した「実務実習実施計画書」を確認し、必要に応じて、スケジュール表を修正・更新 （更新〆切：2月8日） ★学生の履歴書や抱負等はwebツールで提示（学生プロファイル）
2月18～20日	本学：　実務実習事前講習会実施（手引き配布）
2月25日～	第Ⅰ期実務実習開始（薬局のみ）

1　書類等に関する実施事項（実習施設の実習管理者）

締め切り日時が前倒しになったこと以外は、基本的に今までと同じです。

①　受け入れ確認票／指導薬剤師確認票の作成

- 11月9日に本学から書式を郵送しますので、内容を確認の上、**11月22日まで**に本学に返送して下さい。

②　契約関連書類等の作成

- 12月下旬に本学から書類一式を郵送しますので、翌年**1月末日まで**に書類を作成し、本学に返送して下さい。
- 新運用では、従来の書類のうち「実務実習実施計画書」と「学生履歴書」は、web ツールで作成します。

2 Web ツール関連の実施事項（実習施設の実習管理者）

① 指導薬剤師用マニュアルを通読

- 本学DLサイト、またはID取得後ログインして閲覧して下さい。

② 管理者 ID 取得と指導薬剤師 ID 設置

- 管理者IDと当初 pass word を大学から通知しますので、ログインして新しい pass word を設定して下さい。
- 自施設内で複数の指導薬剤師 ID を設置できますので、管理者は必要に応じて ID を作成して下さい。

③「学生プロフィール」の内容確認

④「実務実施計画書」の確認と更新

- 「実務実施計画書」のうち、大学で作成する項目(1)～(7)の内容を確認して下さい。
- 項目(8)に**必要事項を記載**して下さい。
- (薬局／病院 実習スケジュール)には、東北調整機構標準版スケジュールを掲載しますので、自施設の事情に合わせてスケジュール内容を**修正(更新)**して下さい。

1　初めてのログインと新webツールの概要

i.　初めてのログイン
ii.　最初にやること
iii.　改訂コア・カリWebシステムの基本仕様
iv.　トップ画面メニュー
v.　学生毎の基本画面メニュー

マニュアル　p.3～6参

初めてのログイン

1. システム稼働時間　毎日 7:00 ～ 25:00
2. 初回ログイン
   i.　ブラウザのアドレス欄に、

   https://ph.mediasolution.jp/Usersite/

   と入力し、リターンキーを押す。

   ii.　ログイン画面が表示される。
   iii.　本学から通知された初期 ID と pass word を入力する（初期IDは最初に指導薬剤師を登録する時のみ使用）。
3. 利用規約に同意する

重要

マニュアル　p.38～48　参

最初にやること

1. トップページ ⇒「システム管理」⇒「指導薬剤師一覧」を順番にクリック
2. 「新規登録」をクリック　（複数登録可）
3. 指導薬剤師情報を入力する。
4. 「登録」⇒「確認」を順番にクリック
5. 指導薬剤師ＩＤとパスワードが表示される。これを記録し、当該薬剤師に通知する。
6. 指導薬剤師ＩＤでログインして、薬剤師ＩＤと実習生ＩＤを紐づけする。

6の紐づけ操作をしないと、実務実習実施計画書の作成、日誌のコメント、到達度評価等が一切できません。

改訂コアカリWebシステムの基本仕様

（作成：薬学教育協議会　webシステム検討委員会）

S: 学生、P: 指導薬剤師
A: 大学教員、G: ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ

1 学生情報

1)学生基本情報[A]、2)自己紹介[S]、3)実習目標[S]

2 実務実習実施計画書

1)実習生の基本情報[A]、2)大学での実習準備教育[A]、3)評価方法[A]、
4)実習の概要(薬局と病院の実習分担[G]、**実務実習計画(ｽｹｼﾞｭｰﾙ表含む)** [A][P]、
5)実習施設への要望[S]、6)その他

3 実習日誌(日報)

1)出欠[S]、2)8疾患への関与件数[S]、3)8疾患の服薬指導件数[S]、
4)実習した内容(日誌)[S]、**5)薬剤師コメント**[P]

4 振り返りレポート(週報)

1)8疾患の集計(日誌からの自動集計)、2)理解出来たこと／出来なかったこと[S]、
3)実践出来たこと／出来なかったこと[S]、4)今週出来なかったの改善策[S]、
5)薬剤師コメント[P]、6)教員コメント[A]

5 到達度評価

1)**“概略評価表(１０項目)”に従った４段階評価** [S][P]
“概略評価表”はガイドラインの『概略評価(例示)補足』を使用

6 メール・伝言機能[S][P][A]

7 オプション：(指導薬剤師による実習終了時の５段階評価)

トップ画面メニュー

実習生一覧
メッセージ
システム管理
実習検索
指導薬剤師一覧
SBOs一覧
前回ログイン日時：2018/07/20 15:08:20
ログアウト
パスワード変更
実習生一覧
メッセージ
システム管理
実習生検索
検索条件
担当実習生
実習生表示
実習生氏名
フリガナ
性別
学籍番号
大学名
実習期間
薬局
病院
ツールメニュー
七五実習生一
ななじゅうごじっしゅうせいいち
75S01
東北医科薬科大学
5月1日～
5月1日～
日報 出欠状況 メール・伝言
実習施設連携 選択
七五実習生二
ななじゅうごじっしゅうせ
75S02
東北医科薬科大学
5月1日～
5月1日～
日報 出欠状況 メール・伝言
実習施設連携 選択
ごじっしゅうせ
75S03
東北医科薬科大学
5月1日～
5月1日～
日報 出欠状況 メール・伝言
実習施設連携 選択
七五実習生四
ななじゅうごじっしゅうせいよん
75S04
東北医科薬科大学
5月1日～
5月1日～
日報 出欠状況 メール・伝言
実習施設連携 選択
学生毎の
基本メニューへ

学生毎の基本画面メニュー

実習日誌

一週間振り返り

到達度評価

メール・伝言

学生プロフィール

実務実習実施計画書

データ出力

実習情報

基本メニュー

マニュアル　p.27～31参

2　実務実習実施計画書の確認と更新

i.　学生基本情報や事前学習の内容など、大部分は大学で作成します。
ii.　第(8)項の「実習情報（実習施設から提供された情報）」は、事前に作成して頂きます。
iii.　実習スケジュール表は、東北調整機構標準版を掲載しますので、自施設の予定に合わせて、変更・更新して下さい。

実務実習実施計画書の画面と項目

▼実習情報

実習日誌 | 一週間振り返り | 到達度評価 | メール・伝言 | 学生プロフィール | 実務実習実施計画書 | 実習終了時の評価 | データ出力

- ▼(1)実習生に関する情報
- ▼(2)大学での実習状況
- ▼(3)実習の概要
- ▼(4)薬局と病院での実習内容の分担について
- ▼(5)大学、実習施設間での連絡事項とその伝達(情報共有)方法
- ▼(6)実習生評価方法
- ▼(7)大学、実習生から実習施設への要望
- ▼(8)実習情報(実習施設から提供された情報)
- ▼(9)その他
- ▼薬局 実習スケジュール
- ▼病院 実習スケジュール

【※】

ファイル添付

【※】大学で作成

学生の基本情報(表示)

事前実務模擬実習テキスト、学生の自己概略評価のpdfなど

実習施設名、連絡先など

ガイドライン記載のSBOs毎の実習分担表

施設訪問の予定など

最終評価の方法など

[要作業]
事前に大学と実習施設とで協議しながら作成する。
(実習開始の数カ月前まで)

(8)実習情報(実習施設から提供された情報)

- この項目は、主に実習施設で作成して頂きます。
- 薬局と病院が、各々、webシステムに入力した情報は、連続した一つの画面で表示されます。(学生、病院、薬局、大学間で情報共有)

①【実習指導体制】

②【実習施設での具体的な実習内容とスケジュール(予定)】

③【代表的な疾患の体験予定】(8疾患の体験頻度)

④【実習施設独自の実習方法】

⑤【評価方法】 大学で記入

⑥【実習施設から実習生への要望】

⑦【実習施設から大学への要望】

⑧【その他】

⑨【大学教員/薬剤師間の連絡事項】 大学↔施設

具体的な実習内容やスケジュール表を記載して下さい。Excel ファイル等を添付することもできます。

実務実習実施計画書について
（東北地区共通実習スケジュール表）

平成30年2月3日

1. 東北地区の薬学実務実習における共通の各実習項目の期間の目安を示しています。
2. 表中で、『期間』は、『項目』の目安（分量）を示したもので、2つ以上の項目が重なって実施されることも含んでいます。また、実施する時期や長さは、提示した『週数』とは異なる場合があります（ひな型2参照）。
3. 各項目の実施順は、施設や学生の事情に合わせて入れ替える等して調整して下さい。

標準実務実習実施計画書（東北地区調整機構版）
ー 基本的項目と分量 ー

※大学が記入

学生名		大学名	
薬局名		病院名	

※薬局が記入

項　目	期間（分量）
薬局実習導入	1週
保険調剤 （調剤、監査、疑義照会、投薬）	3～4週
薬物治療モニタリング・情報提供 （処方解析、薬歴活用、服薬指導等）（来局患者だけでなく、在宅患者や健康相談者を含む）	5～6週
地域貢献の実践 （OTC販売、在宅支援、学校薬剤師、地域包括ケア参画、災害対策等）	2～3週
＊	＊

＊その他の事項があれば自由に追加記載

※病院が記入

項　目	期間（分量）
病院実習導入	1週
調　剤・無菌調製 （内・外用剤の調剤、注射剤セット調剤、注射剤無菌調製等）	2～3週
DI業務、薬品管理業務	2週
病棟業務の実践 ・一般病棟における病棟業務 ・チーム医療、急性期医療	6～9週
がん化学療法 （レジメンチェック、抗がん薬調製）	
＊	＊

＊その他の事項があれば自由に追加記載

実務実習実施計画書ひな型2（東北地区調整機構版）

（Excel または手書き作成例）

※大学が作成

学生名	東北　太郎　（学籍 201045)	大学名	○○大学
薬局名	○○薬局	病院名	○○病院

※実習施設が作成

実施する期間を矢印で示してください。矢印は大項目、小項目のどちらについてでもかまいません。
随時実施する項目は、破線の矢印で示してください。

	項　目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
薬局実習	薬局実習導入		→										
	保険調剤 3～4 週程度	調　剤 監　査 投　薬 疑義照会	- - -	随時	- - -	随時 - - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
	薬物治療ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ/情報提供 5～6 週程度	処方解析 薬歴の活用 その他	- - -	随時 - - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
	地域貢献の実際 2～3 週程度	OTC販売 在宅支援 その他	- - -	随時 - - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
病院実習	病院実習導入		→										
	調剤・無菌調製 2～3 週程度	内・外用剤 注射剤セット 無菌調製	→	→	→								
	DI・薬品管理 2 週程度	薬品情報管理 薬品管理				→	→						
	病棟業務 6～9週程度 がん化学療法	一般病棟 急性期病棟 ﾚｼﾞﾒﾝﾁｪｯｸ 抗癌薬調製					→	→	→	→	→	→	→
						随時	- - -	- - -	- - -				

Web ツールのスケジュール表（薬局用）

改訂コアカリ小項目	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週
薬学臨床の基礎											
【②臨床における心構え】〔A（1）、（2）参照〕	×										
処方せんに基づく調剤											
【②処方せんと疑義照会】	×【随時】										
【③処方せんに基づく医薬品の調製】	×【随時】										
【④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】		×【随時】									
【⑤医薬品の供給と管理】	×										
【⑥安全管理】		×									
薬物療法の実践											
【①患者情報の把握】		×【随時】「薬物療法とその実践」として、合計5～6週程度（分量）。									
【②医薬品情報の収集と活用】〔E3（1）参照〕		×【随時】									
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】		×【随時】									
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】		×【随時】									
チーム医療への参画											
【①医療機関におけるチーム医療】											
【②地域におけるチーム医療】				×【随時】							
地域の保健・医療・福祉への参画											
【①在宅（訪問）医療・介護への参画】				×【随時】「地域の保健・医療・福祉への参画」として、合計2～3週程度（分量）。							
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】				×【随時】							
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】				×【随時】							
【④災害時医療と薬剤師】				×【随時】							

黄色のバーの幅は自由に変更できる。
バーの中に任意のテキスト文字が入力できる。

Web ツールのスケジュール表（病院用）

改訂コアカリ小項目	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週
薬学臨床の基礎											
【②臨床における心構え】〔A（1）、（2）参照〕											
処方せんに基づく調剤											
【②処方せんと疑義照会】	【随時】										
【③処方せんに基づく医薬品の調製】	【随時】内・外用剤の調剤、注射剤調剤、注射剤無菌調製含む、分量としては2～3週間程度										
【④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】		【随時】病棟業務は分量として6～9週程度									
【⑤医薬品の供給と管理】											
【⑥安全管理】-1		医療安全									
【⑥安全管理】-2		感染管理									
薬物療法の実践											
【①患者情報の把握】		【随時】									
【②医薬品情報の収集と活用】〔E３（1）参照〕											
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】		【随時】									
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】		【随時】									
チーム医療への参画											
【①医療機関におけるチーム医療】				【随時】							
【②地域におけるチーム医療】											
地域の保健・医療・福祉への参画											
【④災害時医療と薬剤師】											

黄色のバーの幅は自由に変更できる。
バーの中に任意のテキスト文字が入力できる。

Ⅱ 実習中に実施すること

1　実習生の実施事項

① 実習日誌の入力・登録（毎日）

i.　出席状況
ii.　具体的な実施内容
iii.　１日のスケジュール
iv.　8疾患への関わり（関わった数、服薬指導した数）
v.　実習で達成できなかった点、次回への反省点
vi.　その他

② 振り返りレポートの入力・登録（毎週）

i.　実習したこと（項目ごとに関わった日数も記載）
ii.　理解出来たこと、出来なかったこと
iii.　実践出来たこと、出来なかったこと
iv.　今週出来なかったことに対する改善策

③ 概略評価（毎週）

i.　概略評価１０項目について4段階の自己評価を入力

④ その他（必要に応じて）

i.　メッセージ機能を用いた大学への連絡

2　指導薬剤師の実施事項

① 実習日誌の確認、必要に応じてコメント入力

i.　実習日誌の内容を確認（毎日）

ii.　必要に応じてコメントを入力（随時）

② 振り返りレポートの確認とコメント入力

i.　学生が登録した振り返りレポートの内容を確認　（毎週）

ii.　コメントを入力　**（毎週）**

③ 自己評価の確認と指導薬剤師による評価

i.　学生の自己概略評価を確認　（毎週）

ii.　指導薬剤師による概略評価の入力　**（各項目について少なくても3回）**

iii.　学生の自己評価と比較して、必要に応じて学生に指導

④ その他（必要に応じて）

i.　メッセージ機能を用いた大学への連絡

3　大学教職員の実施事項

① 定期的な実習施設訪問

i.　薬学部助教以上の教員による施設訪問

1回目：第2～4週　2回目：第7～9週

② 実習日誌の確認

i.　実習日誌の内容の確認（随時）

③ 振り返りレポートの確認とコメント入力

i.　学生および指導薬剤師が登録した振り返りレポートの内容を確認し、**コメントを入力**　**（毎週）**

④ その他

i.　学生および指導薬剤師からのメッセージの確認**（毎日）**

マニュアル　p.17～19参

1　実習日誌

i.　出欠状況を記録する。

ii.　当日の実習スケジュールを記録する。

iii.　当日の習得事項や達成事項を記録する。

iv.　次回への反省点・改善点を記録する。

v.　当日の８疾患の履修状況（関わった or 服薬指導をした）を記録する

実習日誌の仕様

学生情報			実習施設			
学生氏名	ふりがな	性別	薬局		病院	
薬学　恵	やくがく　めぐみ	男	名称	東京薬局	名称	日本病院
所属大学名	慶應義塾大学		住所	千代田区一番町1-1	住所	千代田区霞が関1-1
学籍番号	12345678		電話	03-1111-1111	電話	03-2222-2222
担当教員名	日本　花子		担当薬剤師名	北海　道夫	担当薬剤師名	沖　縄一

学生プロフィール編集・更新

実務実習実施計画

実習日誌	振り返りレポート	出欠登録（スケジュール）	到達度評価	メール・伝言

出欠欄

実習日: 2018年6月
出欠管理:
（ ）出席　（ ）欠席　（ ）遅刻　（ ）早退　コメント（10時に到着し、18時まで実習）
※欠席、遅刻、早退の理由を選択
（ ）病気　（ ）怪我　（ ）忌引　（ ）公共交通機関の遅れ　（ ）その他（　　）
SBOs:

実習内容 【実習したこと、調べたこと、考えたことを文章で記載】

指導薬剤師のコメント

キャンセル　保存

【実習したこと、調べたこと、考えたことを文章で記載】と入れる

日誌画面①

実習日誌

7/12(木)

出欠状況

具体的な実習内容（日誌）

１日のスケジュール

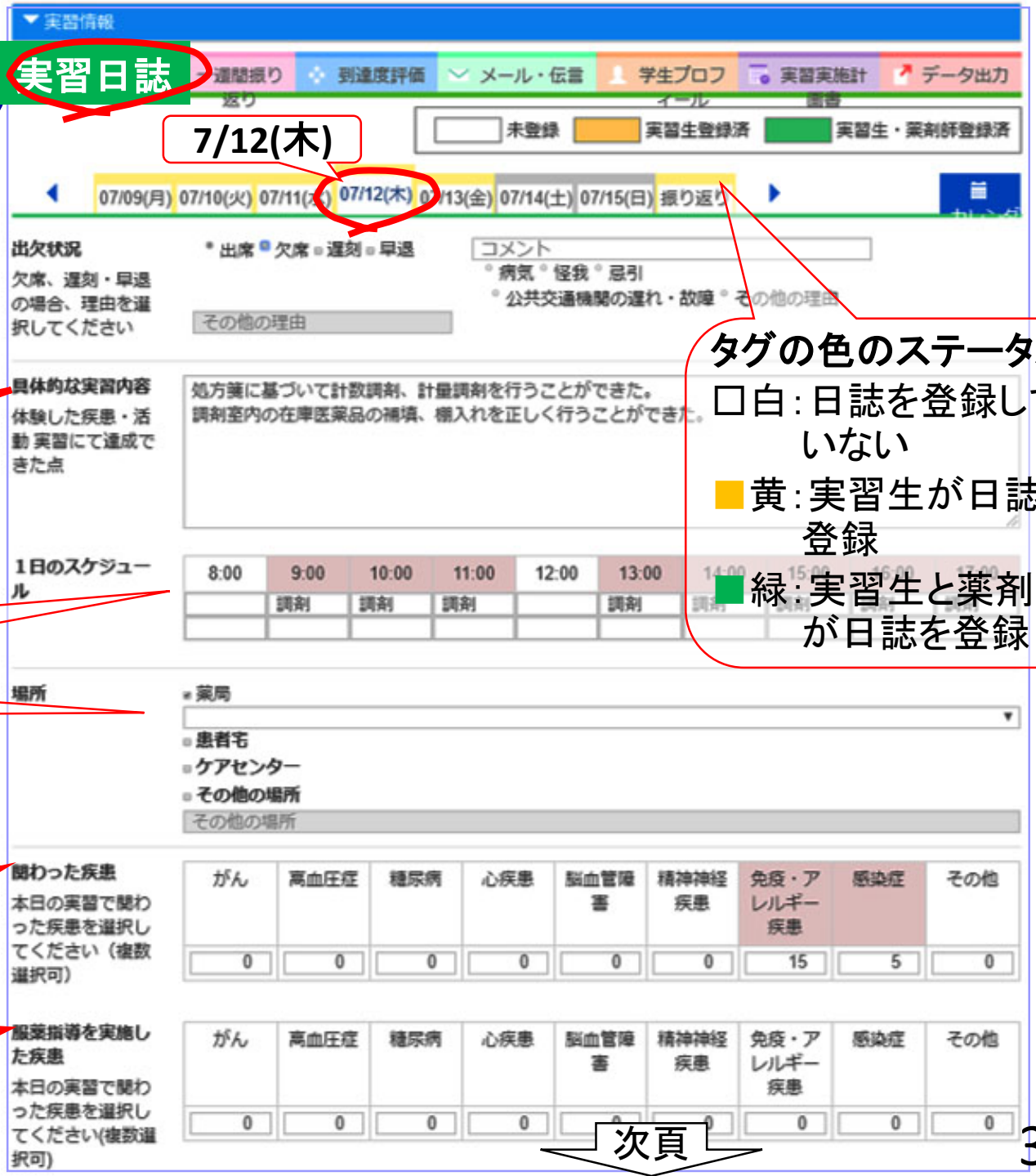
場所

関わった疾患（数を入力）

服薬指導を実施した疾患（数を入力）

タグの色のステータス

- □白：日誌を登録していない
- ■黄：実習生が日誌を登録
- ■緑：実習生と薬剤師が日誌を登録



8疾患の疾患数の数え方について

区分	関わった疾患数	服薬指導をした疾患数
定義	処方箋、カルテ等の患者情報として関わった全ての疾患数	患者に直接服薬指導をした場合の疾患数
例	• 調剤、注射剤調製 • 薬学的管理、薬歴管理、抗がん薬レジメンチェック、カルテ／電子カルテチェック等	• 入院患者服薬指導 • 外来患者への投薬 • OTC対面販売 • 薬局における投薬 • 在宅患者指導
備考	合併症に対する治療薬の調剤や薬学的管理でも可	合併症に対する治療薬の服薬指導も可

8疾患の疾患数の数え方（補足）

- 合併症の場合、各々の疾患に対して疾患数がカウントされるので、一人の患者に対して複数の疾患数がカウントされる場合があります。
- 学生自身が当該疾患と関わったことを認知しないと、疾患数としてカウントされません。
- 従って、当該処方箋、薬歴、カルテ等と学生が関わった場合、**疾患との関連性について学生に御指導**いただきますよう、よろしくお願いいたします。（例：学生が調剤した処方箋について、学生に処方解析をさせ、後で指導薬剤師より解説いただくなど）

日誌画面②

実習に関連する能力
（選択すると着色）

実務実習記録による評価項目
（選択すると着色）

実習にて達成できなかった点、
次回への反省・改善点

添付資料 （ファイル貼付け）

指導薬剤師のコメント

続き

実習に関連する能力

- 薬学臨床の基礎
  - 【②臨床における心構え】〔A（1）、（2）参照〕
- 処方せんに基づく調剤
  - 【②処方せんと疑義照会】
  - 【③処方せんに基づく医薬品の調製】
  - 【④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】
  - 【⑤医薬品の供給と管理】
  - 【⑥安全管理】
- 薬物療法の実践
  - 【①患者情報の把握】
  - 【②医薬品情報の収集と活用】〔E３（1）参照〕
  - 【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】
  - 【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】

実務実習記録による評価項目
本日の実習で経験した状況を選択してください（実施時のみ）

- チーム医療への参画
  - 【①医療機関におけるチーム医療】
  - 【②地域におけるチーム医療】
- 地域の保健・医療・福祉への参画
  - 【①在宅（訪問）医療・介護への参画】
  - 【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】
  - 【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】
  - 【④災害時医療と薬剤師】

独自評価

実習にて達成できなかった点
次回への反省・改善点

シロップの計量調剤でメスアップするときに水を入れすぎて数滴以上捨てなければならなくなってしまった。メスアップするときも慎重に水を加えるようにしたい。

添付資料

ファイルを選択　ファイル未選択

ファイルを選択　ファイル未選択

指導薬剤師のコメント

確　認

指導薬剤師による日報へのフィードバック

マニュアル　p.20～21参

２ 振り返りレポート（週 報）

i.　学生が毎週その週を振り返って実習の進捗状況を確認するとともに次週の目標を明確にする。

ii.　８疾患の習得状況を確認する。

iii.　進捗状況を、指導薬剤師、大学教員と共有する。

iv.　薬局実習ー病院実習の連携に供する。

振り返りレポート（週報）の仕様

振り返りレポート（　　週目）　〇〇大学　　学籍番号（　　）氏名（　　）
この1週間で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください.

実習したこと（項目ごとに関わった日数等も記載）		
関わった疾患（処方解析・投薬計画等を実施した疾患等）とその人数		がん（　）名、高血圧症（　）名、糖尿病（　）名、心疾患（　）名、脳血管障害（　）名、精神疾患（　）名、免疫・アレルギー疾患（　）名、　感染症（　）名 その他の疾患［　　］（　）名、［　　］（　）名、［　　］（　）名
服薬指導を実施した疾患とその人数		がん（　）名、高血圧症（　）名、糖尿病（　）名、心疾患（　）名、脳血管障害（　）名、精神疾患（　）名、免疫・アレルギー疾患（　）名、　感染症（　）名 その他（　　）名、（　　）名、（　　）名
理解	できたこと	
	できなかったこと	
実践	できたこと	
	できなかったこと	
今週できなかったことに対する改善策		
施設あるいは大学に伝えたいこと		
指導薬剤師のコメント		指導薬剤師が学生へのフィードバックを記載
大学教員のコメント		大学教員が学生と実習担当者へのフィードバックを記載

振り返りレポート画面①

実習情報

実習日誌　一週間振り返り　到達度評価　メール・伝言　学生プロフィール　実習実施計画書　データ出力

未登録　実習生登録済　実習生・薬剤師登録済

07/09(月) 07/10(火) 07/11(水) 07/12(木) 07/13(金) 07/14(土) 07/15(日) 振り返り

振り返り

2018/07 第11週 週報

実習した事（項目ごとに関わった日数等も記載）

計数調剤（5日）
計量調剤（5日）
服薬指導（1日）
レセプトの書き方（1日）
自主回収につおて（1日）

関わった疾患とその人数（処方解析・投薬計画などを実施した疾患等）

がん	高血圧症	糖尿病	心疾患	脳血管障害	精神神経疾患	免疫・アレルギー疾患	感染症	その他
0人	8人	1人	8人	0人	0人	36人	38人	6人

服薬指導を実施した疾患とその人数

がん	高血圧症	糖尿病	心疾患	脳血管障害	精神神経疾患	免疫・アレルギー疾患	感染症	その他
0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人

理解

理解できた事：レセプトの書き方につて理解することができた。
自主回収になった場合の対応について学ぶことができた。

理解できなかった事：

実習したこと（項目ごとに関わった日数等も記載）

関わった疾患とその人数（日報から自動積算）

服薬指導を実施した疾患とその人数（日報から自動積算）

理解できたこと

理解できなかったこと

次頁

振り返りレポート画面②

実践できたこと

実践できなかったこと

今週出来なかった事に対する改善策

施設・大学に伝えたい事

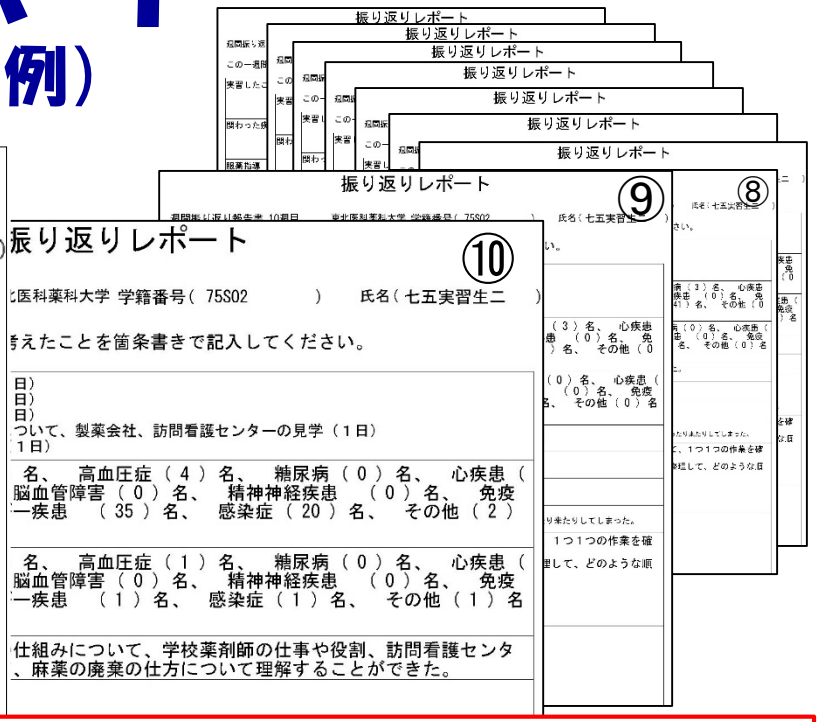
指導薬剤師のコメント

大学教員のコメント

続き

実践できた事	軟膏の計量調剤を比較的スムーズにできた。 服薬指導で患者さんに自分が聞きたいことを全て聞くことができた。患者さんの話に共感することができた。
実践できなかった事	散剤の計量調剤が日によってスムーズにできる日とできない日があった。 シロップの計量調剤で多く入れすぎてしまうことが、多々あった。 軟膏のチューブから出すタイプの計量調剤のスピードが遅くなってしまった。
今週出来なかった事に対する改善策	シロップの計量調剤ではメモリが近づいてきたときの入れ方を考えて調剤するようにしたい。 散剤は均一にするときに端が少なくなってしまいがちなので、力を抜いて少ない回数で均一にできるようにしたい。 チューブから出すタイプの軟膏の計量調剤ではどうすれば早く正確にできるか考えて調剤したい。
施設・大学に伝えたい事（指導薬剤師・担当教員を含む）	
指導薬剤師のコメント	確認 指導薬剤師による学生の振り返りレポートへのフィードバック
大学教員のコメント	確認 大学教員による振り返りレポートへのフィードバック

振り返りレポート
（pdf ファイル出力例）



振り返りレポート

⑪

週間振り返り報告書 9週目　　東北医科薬科大学 学籍番号（ 75S02 ）　氏名（ 七五実習生二 ）

この一週間で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

実習したこと		計数調剤（４日） 計量調剤（４日） 服薬指導（３日） 学校薬剤師について、製薬会社、訪問看護センターの見学（１日） 麻薬の廃棄（１日）
関わった疾患		がん（ 0 ）名、 高血圧症（ 4 ）名、 糖尿病（ 0 ）名、 心疾患（ 1 ）名、 脳血管障害（ 0 ）名、 精神神経疾患 （ 0 ）名、 免疫・アレルギー疾患 （ 35 ）名、 感染症（ 20 ）名、 その他（ 2 ）名
服薬指導		がん（ 0 ）名、 高血圧症（ 1 ）名、 糖尿病（ 0 ）名、 心疾患（ 0 ）名、 脳血管障害（ 0 ）名、 精神神経疾患 （ 0 ）名、 免疫・アレルギー疾患 （ 1 ）名、 感染症（ 1 ）名、 その他（ 1 ）名
理解	できたこと	製薬会社の仕組みについて、学校薬剤師の仕事や役割、訪問看護センターについて、麻薬の廃棄の仕方について理
	できなかったこと	
実践	できたこと	学校薬剤師の仕事を実際に行うことができ
	できなかったこと	自分が目標とするような服薬指導をするこ
今週できなかったことに対する改善策		服薬指導で、指導薬剤師の先生に言われてあったので、これまでの経験を生かして聞きたい。また、薬の説明をするときに、計同じものについてまとめて説明することがしまうので、服用時点については投薬に行にしたいと思う。
施設あるいは大学に伝えたいこと		（略）
薬剤師のコメント		（略）
大学教員のコメント		（略）

振り返りレポート

⑩

医科薬科大学 学籍番号（ 75S02 ）　氏名（ 七五実習生二 ）

考えたことを箇条書きで記入してください。

日）
日）
日）
ついて、製薬会社、訪問看護センターの見学（１日）
１日）

名、 高血圧症（ 4 ）名、 糖尿病（ 0 ）名、 心疾患（
脳血管障害（ 0 ）名、 精神神経疾患 （ 0 ）名、 免疫
一疾患 （ 35 ）名、 感染症（ 20 ）名、 その他（ 2 ）

名、 高血圧症（ 1 ）名、 糖尿病（ 0 ）名、 心疾患（
脳血管障害（ 0 ）名、 精神神経疾患 （ 0 ）名、 免疫
一疾患 （ 1 ）名、 感染症（ 1 ）名、 その他（ 1 ）名

仕組みについて、学校薬剤師の仕事や役割、訪問看護センタ
、麻薬の廃棄の仕方について理解することができた。

⑨

⑧

実習全体の振返りレポート

実習期間 05月01日 ～ 07月31日　東北医科薬科大学 学籍番号（ 75S02 ）　氏名（ 七五実習生二 ）

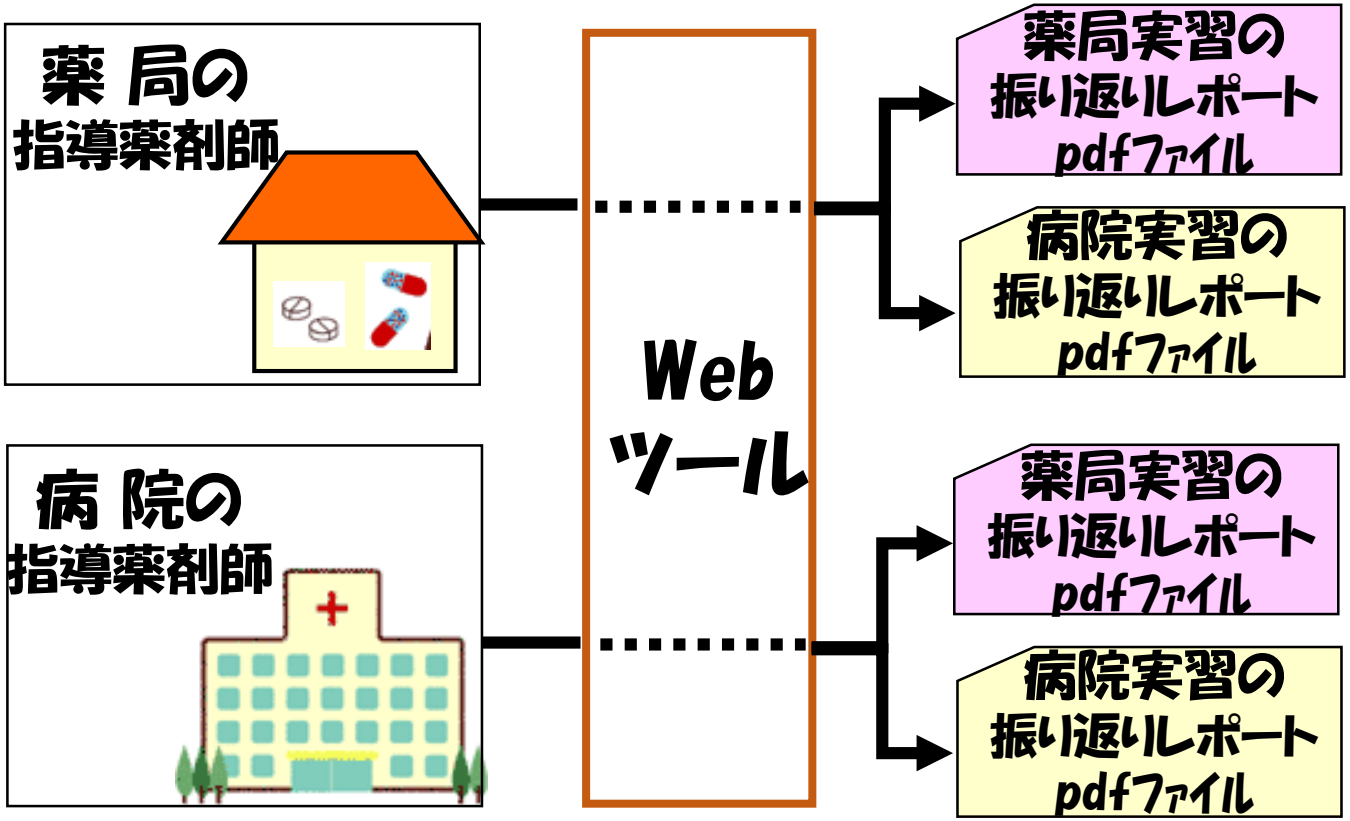
この実習全体で実習したことおよび考えたことを箇条書きで記入してください。

11週間の集計を表示

実習したこと		
関わった疾患		がん（ 3 ）名、 高血圧症（ 41 ）名、 糖尿病（ 18 ）名、 心疾患（ 19 ）名、 脳血管障害（ 3 ）名、 精神神経疾患 （ 2 ）名、 免疫・アレルギー疾患 （ 342 ）名、 感染症（ 235 ）名、 その他（ 42 ）名
服薬指導		がん（ 0 ）名、 高血圧症（ 3 ）名、 糖尿病（ 3 ）名、 心疾患（ 0 ）名、 脳血管障害（ 0 ）名、 精神神経疾患 （ 0 ）名、 免疫・アレルギー疾患 （ 13 ）名、 感染症（ 7 ）名、 その他（ 5 ）名
理	できたこと	

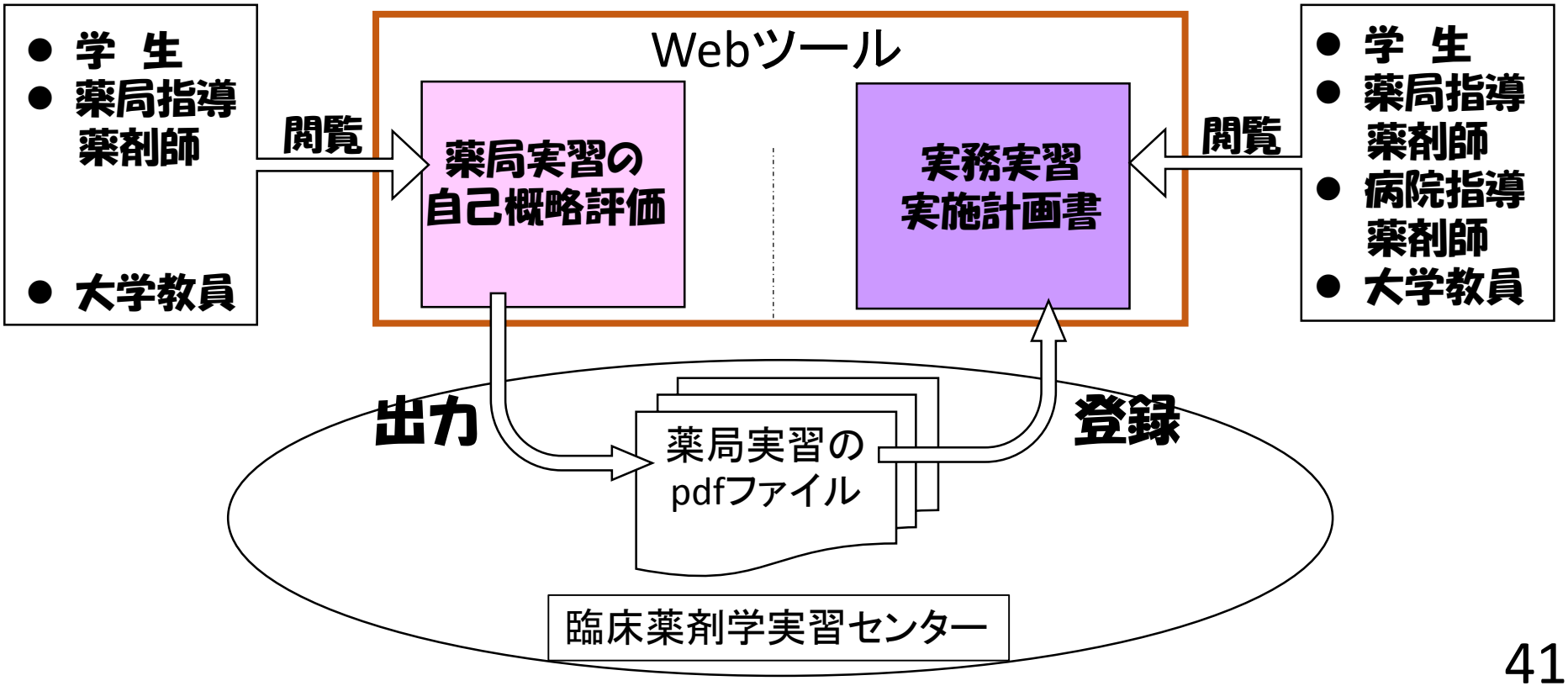
振り返りレポートの情報共有について

振り返りレポートは、**pdf ファイルで出力**することにより、薬局と病院で**相互に閲覧可能**です。



概略評価の情報共有について

薬局実習の概略評価は、病院で直接閲覧することができません。そこで、東北医科薬科大学では、以下のような手順で**「学生自己概略評価」を pdf ファイル**にして、web ツールに掲示し、薬局での学生の自己評価情報を病院にお知らせします。



マニュアル　p.22～24　参

3　到達度評価（概略評価）

i. **薬学実務実習の評価は、大項目(1)～(3)については、一部を除き、10項目からなる“概略評価表”に従って評価する。**

ii. 概略評価表は、ガイドラインの『概略評価(例示)補足』を使用（ **4段階評価**）

iii. 大項目(4), (5)は、実務実習記録から大学が評価する。

概略評価のタイミング

1. 基本的には、毎週、概略評価をして下さい。
2. 形成的評価が必要なので、実習中に**少なくても3回**は、概略評価をして下さい。
（第4週、第8週、第11週）

【概略評価の例】

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週
定期的な全項目評価				1回目				2回目			3回目
不定期の各項目評価	(1)② (2)①②	(2)①～⑤			(3)①～③		(3)①～③		(2)⑥	(3)①～③	

「F 薬学臨床」の到達度評価(H30.1.22時点)

(1) 薬学臨床の基礎	①（早期臨床体験）　：注１ ＊ ②臨床における心構え ③（臨床実習の基礎）：注２	左列中の“＊”の付いた10項目は、概略評価表を用いて評価する。 ・学生自己評価 ・指導薬剤師評価
(2) 処方せんに基づく調剤	①法令・規則等の理解と遵守：注2 ＊ ②処方監査と疑義照会 ＊ ③処方せんに基づく医薬品の調製 ＊ ④患者・来局者応対、情報提供・教育 ＊ ⑤医薬品の供給と管理 ＊ ⑥[薬局］安全管理 [病院］医療安全，感染管理	
(3) 薬物療法の実践	＊ ①患者情報の把握 ＊ ②医薬品情報の収集と評価・活用 ＊ ③薬物療法の問題点の識別と処方設計及び問題解決 ＊ ④有効性モニタリングと副作用モニタリング	
(4) チーム医療への参画	①医療機関におけるチーム医療 ②地域におけるチーム医療	**実務実習記録から大学教員が評価する**
(5) 地域の保健/医療/福祉への参画	①在宅(訪問）医療・介護への参画 ②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師等）への参画 ③プライマリケア・セルフメディケーションの実践 ④災害時医療と薬剤師	

注１：原則２年次までに修了しておく。
注２：(1),(2),(3)の領域の評価に含まれる

到達度評価表トップ画面

実習日誌 | 一週間振り返り | 到達度評価 | メール・伝言 | 学生プロフィール | 実習実施計画書 | 実習終了時の評価 | データ出力

薬局情報 | 病院情報

標準評価項目	最終評価	
	実習生	指導薬剤師
(1)薬学臨床の基礎		
■【②臨床における心構え】〔A（1）、（2）参照〕	3点	3点
(2)処方せんに基づく調剤		
■【②処方せんと疑義照会】	2点	2点
■【③処方せんに基づく医薬品の調製】	2点	2点
■【④患者・来局者応対、服薬指導、	2点	2点
■【⑤医薬品の供給と管理】	3点	3点
■【⑥安全管理】	3点	3点
(3)薬物療法の実践		
■【①患者情報の把握】	2点	3点
■【②医薬品情報の収集と活用】〔E３（1）参照〕	2点	2点
■【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】	未評価	未評価
■【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】	未評価	未評価
(4)チーム医療への参画		
□【①医療機関におけるチーム医療】	06月29日	06月27日
□【②地域におけるチーム医療】	未評価	未評価
(5)地域の保健・医療・福祉への参画		
□【①在宅（訪問）医療・介護への参画】	未評価	06月04日
□【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】	06月29日	06月27日
□【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】	未評価	未評価
□【④災害時医療と薬剤師】	06月29日	06月27日

②処方箋と疑義照会

③処方箋に基づく医薬品の調製

概略評価表の原本(1)

(2) 処方箋に基づく調剤　②処方箋と疑義照会

	概略評価表(例示)					
	観点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階
日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示	処方監査と疑義照会 B		患者の病態およびナラティブ、治療の科学的根拠に基づいて、処方の妥当性を判断する。	医薬品情報および患者情報をもとに、処方内容を監査する。 医師や医療スタッフと患者に関する情報を共有(疑義照会を含む)する。	実習施設内で扱うすべての処方箋と調剤薬に関して医薬品情報を基に適切に監査ができ、必要に応じて疑義照会を実施する。	単純な処方箋(※参照)および調剤薬の監査を行い、リスク回避のための対応方法を実施する。 ※①処方内容を構成する医薬品の数が2～3種類と少ない処方、②1つの疾患に対する処方
日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示	処方監査と疑義照会	処方監査と疑義照会を実践する。 処方監査:患者情報と医薬品情報に基づき、処方の妥当性、適切性を判断する。 疑義照会:必要に応じて、疑義照会の必要性を判断し、適切なコミュニケーションのもと実施し、記録し、次に活かす。最終的には、医師の処方行動に変容をもたらす。	明らかな疑義が無くても患者情報などを判断し、より良い処方を提案する。	患者情報や医薬品の情報を考慮して疑義照会を適切に行い、代替案を提示する。	医薬品の基本的な情報に基づき、処方に対する疑義の有無を判断する。 ※患者情報とは、④患者応対及び(3)薬物療法の実践①患者情報の把握に基づく ※医薬品情報とは、(3)薬物療法の実践②医薬品情報の収集と活用に基づく	処方箋の形式上の不備が無いか確認し、処方箋に従って調剤する。

概略評価表の入力画面(1)

(2) 処方箋に基づく調剤　②処方箋と疑義照会

実習日誌 | 一週間振り返り | 到達度評価 | メール・伝言 | 学生プロフィール | 実習実施計画書 | 実習終了時の評価 | データ出力

検索条件設定　　○実習生 ●指導薬剤師

■【②処方せんと疑義照会】

(2)処方せんに基づく調剤

(2) 処方箋に基づく調剤

②処方箋と疑義照会

■【②処方せんと疑義照会】

チェックポイントSBOs

◎処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）

◎注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）

◎処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）

◎薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）

◎薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）

観点	4	3	2	1	
処方監査と疑義照会B	患者の病態およびナラティブ、治療の科学的根拠に基づいて、処方の妥当性を判断する。	医薬品情報および患者情報をもとに、処方内容を監査する。医師や医療スタッフと患者に関する情報を共有（疑義照会を含む）する。	実習施設内で扱うすべての処方箋と調剤薬に関して医薬品情報を基に適切に監査ができ、必要に応じて疑義照会を実施する。	単純な処方箋(※参照）および調剤薬の監査を行い、リスク回避のための対応方法を実施する。※①処方内容を構成する医薬品の数が2～3種類と少ない処方、②1つの疾患に対する処方	削除
06月29日			○		
06月04日				●	
06月27日			●		
07月23日	●	●	●	●	

概略評価表の原本(2)

(2)処方箋に基づく調剤
③処方箋に基づく医薬品の調製

	観点	アウトカム	第 4 段階	第 3 段階	第 2 段階	第 1 段階
日薬手引きを参照した薬局実務実習評価例示	処方箋に基づく医薬品の調製 A		薬剤師業務の意義を常に認識して、患者の要望や病態等を総合的に考慮した医薬品の調製や供給・管理を、業務の流れを妨げず適切に行う。	患者の病態を考慮した調剤上の工夫を提案し、複雑な処方箋の計数・計量調剤を、何度も同じように(再現性のある)素早く正確に行う。	実習施設内で扱うすべての処方箋についてある程度スムーズな流れで計数・計量調剤を行う。	単純な処方箋(※参照)について計数・計量調剤を行う。 ※①処方内容を構成する医薬品の数が2～3種類と少ない処方、②1つの疾患に対する処方
日病薬評価基準を参照した病院実務実習評価例示	処方せんに基づく医薬品の調製	監査結果に基づき適正な医薬品調製を実践する。	監査・調剤において、特別な注意を要する医薬品を確認し、その適切な取り扱いを行う。調剤業務の中で調製された薬剤の監査を行い、間違いがあれば指摘する。	抗がん剤調製と無菌調製の違いを理解し、適切に実施する。	一包化、錠剤等の粉砕、適切な賦形等、工夫を必要とする調剤について、適切に実施する。	計数・計量調剤(散剤、水剤、軟膏、注射剤など)を正確に行う。

概略評価表の入力画面(2)

(2)処方箋に基づく調剤　③処方箋に基づく医薬品の調製

実習日誌 | 一週間振り返り | 到達度評価 | メール・伝言 | 学生プロフィール | 実習実施計画書 | 実習終了時の評価 | データ出力

検索条件設定　○実習生 ●指導薬剤師

■【③処方せんに基づく医薬品の調製】

(2)処方せんに基づく調剤

■【③処方せんに基づく医薬品の調製】

チェックポイント&SOs

- ◎主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）
- ◎適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）
- ◎処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）
- ◎錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）
- ◎一回量(一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）
- ◎注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）
- ◎注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
- ◎注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）
- ◎特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）
- ◎調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）

観点	4	3	2	1	
処方箋に基づく医薬品の調製A	薬剤師業務の意義を常に認識して、患者の要望や病態等を総合的に考慮した医薬品の調製や供給・管理を、業務の流れを妨げず適切に行う。	患者の病態を考慮した調剤上の工夫を提案し、複雑な処方箋の計数・計量調剤を、何度も同じように（再現性のある）素早く正確に行う。	実習施設内で扱うすべての処方箋についてある程度スムーズな流れで計数・計量調剤を行う。	単純な処方箋（※参照）について計数・計量調剤を行う。※①処方内容を構成する医薬品の数が2～3種類と少ない処方、②1つの疾患に対する処方	削除
06月02日			○		■
06月29日			○		■
06月04日			●		■
06月27日			●		■
07月23日	●	●	●	●	■

(2) 処方箋に基づく調剤

③処方箋に基づく医薬品の調製

学生が自己評価

指導薬剤師が評価

Ⅲ　補 足

1　実習終了後に実施すること

I.　学生が実施すること

i.　実習全体の振り返りレポートの作成

ii.　最後の自己概略評価入力

II.　実習施設が実施すること

i.　実習全体の振り返りレポートの確認・コメント入力

ii.　最後の概略評価入力

iii. 実務実習総評(本学独自)の作成・送付

III.　大学が実施すること

i.　実習全体の振り返りレポートの確認

ii.　最終の概略評価の確認

iii. 項目(4)チーム医療と(5)地域医療等の評価

iv. 各期の病院実習終了後に成果報告会の開催と評価

v.　実務実習の最終評価

2 メッセージ機能

マニュアル p.9～14 参

① 大学↔実習施設間、あるいは、学生↔大学間のクローズドの情報交換をしたい時、
② 大学から実習施設全体あるいは学生全員に通知がある時、
等に「メッセージ」機能を利用します。

おわりに

- 可能な限り、学生に業務を体験させていただきますよう、お願いいたします。
- 病院実習で8疾患への対応がクリアできないことが見込まれた場合は、個別に対応いたしますので、御連絡下さい。

【お問合せ】東北医科薬科大学薬学部
臨床薬剤学実習センター
電話　022-727-0267

おしまい